

第 20 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

同窓会報編集委員会

TEL・FAX (0761) 21-6330

印刷 マルト印刷工業株式会社



祭火は 消えた  
種火を守ろう  
また やってくる  
採火の日に  
備えて

### 漱石が名文といつた遺書

校長 村井 勉

山田風太郎著「人間臨終図鑑」は、数年前五木寛之が新聞の書評で推薦していたので買ってみたものである。その中に佐久間勉の記事を見たときは少なからず驚いたが、彼の「遺書」を漱石が近來の「名文」であると二つの評論を書いていることを知って、私は一層驚いた。

「名文」を確かめるために、「遺書」の複製版を私は取り出した。縦十三センチ、横九センチ、四十ページの質素な折り本である。これを反発盛りの中学生の頃に、私は父から貰ったが、久しく筆筒にしまい込んでままになっていた。

遺書は次のように始まっている。  
「佐久間艇長遺言 小官ノ不注意ニヨリ陛下ノ艇ヲ沈メ 部下ヲ殺ス、誠ニ申シ訳無シ、サレド艇員一同、死ニ至ルマデ皆ヨクツノ職ヲ守リ沈着ニ事ヲ處セリ」この後、沈没の原因、その後の処置、潜水艦の将来等が簡潔且つ克明に書きしるされ、最後に、

「謹ンデ 陛下ニ白ス 我部下ノ遺族ヲシテ 窮スルモノ無カラシメ給ハラン事ヲ、我ガ念頭ニ懸ルモノ之アルノミ、左ノ諸君ニ宜敷、」  
「十二時三十分 呼吸非常ニクルシイ瓦素林ヲ プローアウトセシ積リナレドモ、ガソリンニヨウタ 一、中野大佐十二時四十分 ナリ、」  
で遺言は終わっている。鉛筆書きの文字

は最後まで乱れず、氣迫と氣品ある名筆と思う。

ことの次第はこうである。

明治四十三年四月十五日午前十時頃、日本最初の国産潜水艦の一隻「第六潜水艇」は、広島湾新湊沖合で半潜航訓練開始後間もなく「通風筒」から海水が侵入して沈没。艇長佐久間勉大尉以下十四名の乗組員は全員殉職する。

艇は二日後に引き揚げられたが、ハッチを開けて中に入った関係者が一様に驚いたのは、艇長以下十四名が、それぞれの持ち場に就いたまま倒れていたことであつた。さらに人々を驚かしたのが、艇長の胸ポケットから発見された鉛筆書きの「遺書」であつた。

この遺書は四月二十日の新聞で公表され、すぐに海外にも伝わり、国内外の多くの人々に大きな衝撃を与えた。アメリカ国会議事堂の大広間にある大きなガラスの戸棚には、遺書のコピーが英訳を添えて陳列されたという。

当時、胃腸病で入院していた漱石も「人から遺言の濡れたのを其の儘写真版にしたのを貰つて床の上で其名文を読み返して、『文芸とヒロイツク』、『艇長の遺書と中佐の詩』の二つの評論を書く。これは三ヶ月後の七月十九日二十日の両日、東京朝日新聞の「文芸欄」に掲載された。

『艇長の遺言と中佐の詩』の中で、当時艇長の遺書と前後して新聞に掲載された広瀬中佐の漢詩を「俗悪陳腐」なものであると評した上で漱石は述べる。

「まづいと云う点から見れば双方とも下手いに違いない。けれども佐久間大尉のは已を得ずして拙く出来たのである。呼吸が苦しくなる。部屋が暗くなる。鼓膜が破れさうになる。一行書くすら容易ではない。あれ大文字を連ねるのは非凡の努力を要する訳である。：従つて彼は艇長として報告を作らんがために、凡ての苦悶を忍んだので、他によく思われるがために、徒らな言句を連ねたのではないと云ふ結論に帰着する。：広瀬中佐の詩に至つては毫も以上の条件を具へてゐない。：艇長は自分が書かねばならぬ事を書き残した。又自分でなければ書けない事を書き残した。：」

中佐の詩とは、旅順港口閉塞作戦出発前に書き残した広瀬武夫の漢詩「七生報国、一死心堅、再期成功、含笑上船」のことを指している。

今から百年前、能美郡の山村に生まれ、長じて海軍軍人となり潜水艦に乗つた男がいた。退役後は民間の会社に勤めたが、長らく子供が無く、子沢山の弟夫婦から子供を貰うことにした。物心がついてからは里心がつくと、生まれたばかりの赤ん坊を貰つてくることにした。

男は、生まれてくる子供がまだ男とも女ともわからないのに「勉」と名付けて誕生を待っていたという。

今年ぬくぬくと還暦を迎えた私は、この明治生まれの男や、歴史に埋もれてしまっている数多の男たちの「思い」を考へるとき、胸が熱くなり、申し訳ないと思う。  
(高校11回)

## 新校舎建築工事始まる！

『こんな新校舎ができます』

前高校事務長 清水 教示

昨年、創立百周年記念事業が盛会のうちに終了し、新たに一〇一年の門出にあたり、新校舎建設が始まろうとしています。

思えばあの三八豪雪の年、高校志願者急増による三八対策として計画された校舎改築が、防音校舎となって竣工しました。旧校舎は、同窓会の熱意によってその一部が移築され、この度、記念事業の一環として改修されたことはご承知の通りです。

さて、新校舎建設の決定に至るまでの経緯につきましては記述を割愛しますが、この間事務長としてこれにかかわって痛感しましたことは、建設決定の順調な運びの裏に、同窓会の強いバックアップがあったということです。

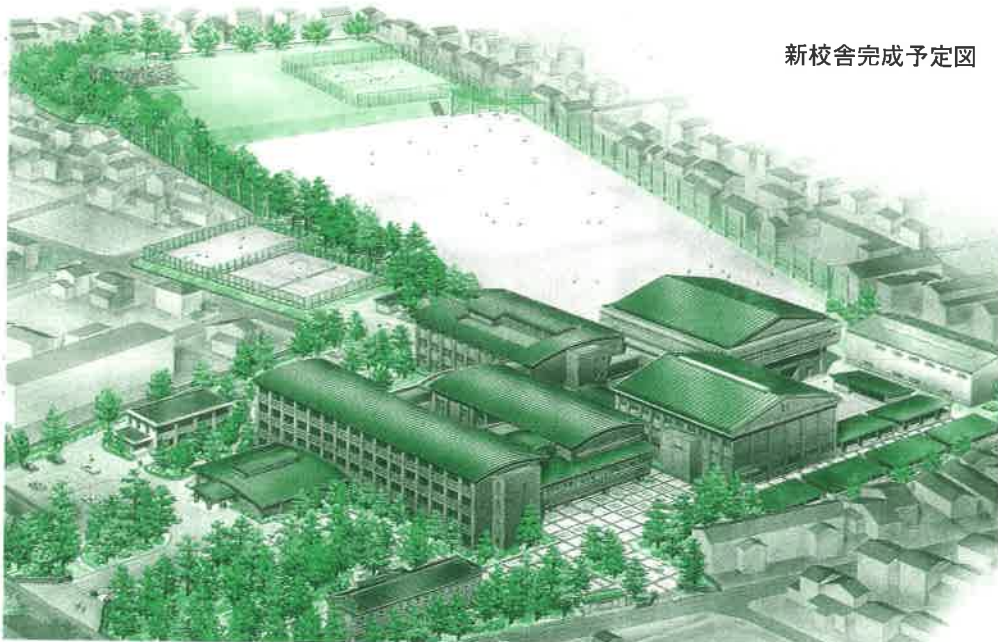
新校舎は、現在の校舎を取り壊しながら、三期に分けて建設されます。第一期工事は、平成十二年度から十三年度にかけて、第一体育館を取り壊し、防音講堂兼第一体育館と三階建の特別実験実習棟（理科・家庭・音楽・美術・書道）が建ちます。

特別実験実習棟は、中央部分が三階まで吹き抜け、一階廊下広場には、生徒の美術書道作品などを展示し、

生徒達が一時の安らぎを得ることができればとの思いで設計されました。

第二期工事は、平成十四年度から十五年度にわたります。今度は管理特別棟を取り壊し、四階建の管理教

新校舎完成予定図



室棟（一階に校長室・事務室・保健室・進路指導室などの管理部屋、二階以上はそれぞれ八教室）の建設です。

新校舎は、一学年八クラスとしての設計であり、各学年は同じ階で授業を受けること

になります。またバリアフリーについても考慮され、エレベーターも設置されますし、各階の一角に、生徒が休み時間に気分転換のできる小広場が設けてあります。

第三期工事は、平成十六年度より十七年度となります。教室棟を取り壊し、三階建の生活学習センター（二階一生徒玄関、二階：職員室・図書室・特別講義室、三階一学生ホール・理数科特別教室・兼生徒議会室・情報教室・購買

など）の建設となります。

生活学習センターは、今後予想される学校開放生涯学習の場として、地域住民に開放し、利用される施設ともなるはずですが。

図書室には二つの閲覧室があり、一つは文字通り図書の閲覧室で、もう一つは、自習する生徒達の便宜がはかられた学習室です。生徒達がそれぞれ目的に応じた勉強に打ち込めるように設計されたものです。

理数科特別教室は、コの字型の階段教室で、三クラス同時に講義が受けられ、学年を越えた選択授業、英語・家庭科の授業、または生徒会議会などに利用できるというふうには、多種多様な利用方法が可能な多目的施設です。これは県下初めての試みで、その利用については注目されそうです。

その他、一学年が利用できる学生ホールなどすばらしい施設・設備の設置が設計図に描かれています。

なお、現在の図書館棟・集会室（旧講堂）は、最終年度に取り壊され、その跡地は校舎周辺整備として、駐車場および緑地になります。

基本構想から実施設計まで、教職員全員で話し合い、教育現場からの願いを集結して構想した新校舎は、きつと生徒達に豊かな高校生活をもたらすものと確信しています。

## 町に新風を創るの挙

林 滋

全国に七自治体しかないという30年間首長選挙が無かった町、その一つが町「辰口」で、それがあるところからまさに珍事。

なにしろ、候補者ボスターの掲示場設置条令が無く、選挙公報も最後まで出して貰えなかったから、横暴なのか無知なのか尋常な状態でなかった。そんな中で四選を目指す現職に対抗して敢然と立候補した男。それが六回生の山岸正美君だった。

彼とは、私が駅西の県産業振興ゾーンに勤めるようになってから四年間は一緒であったが、県知事選挙で陣営を分かつこととなり、彼が悲運に泣いて都落ちしてからは会っていない。

立候補の経緯については、善田県議の同級生である弟から聞いていたので、県議選挙戦並みの支援は必要であろうと思ひ、百周年の名簿から拾い出したが、当時の倍近い五百二十名の同窓生があった。

三晩の夜なべで作製して届けるのと、本人が挨拶に見え後援会の発起人を頼まれた。

勿論異存はなかったが、戦後私達が復活させた「芸芸部」の後輩であり、私が主宰した子供会の集団利用に県立図書館へ通っていた頃、彼が県職のスタートをそこで切り、町の

特産品づくりで「ミニ鬼瓦」の試作相談に伺っていた時、寺井の九谷焼研修所に彼が関与していたなど、縁浅からぬことが判った。

選挙通から見たら、素人丸出しの戦略はさぞかし噴飯ものだったろうが、はまり込んだ百口戦争が終わって、禪譲の恰好に収まった。現職が退任した段階で事足りりとした支援者にしては十分な得票数であったし、本人も自分の夢の実現のために、今後も努力を続けられるらしいから、私達同窓生としても、ゆっくりお付き合いが出来そうである。唐突な申し出に協力頂いた同窓会本部に御礼かたがたご報告申し上げる次第である。(中学46回)

## 南先生を偲んで

白楊会々長 宮西すゞ子

大先輩の南先生死去の悲報を聞いたのは、平成十二年 月八日の夕方でした。前年の十一月中旬頃、八幡温泉病院へ御見舞に行つた時、先生はベットでうつらうつらと假眠中でしたが「先生、先生」と、お呼びした所、うつすらと瞳を開け私達を見るや嬉し気に微笑されていました。あれから一ヶ月余、帰らぬ人となられたのです。一月九日の朝、南家へ御挨拶に行き先生の最期のお姿に接しましたが、安らかな綺麗な寝顔でした。行年八十九才の大往生でした。

先輩の死去は後輩の私にとりましては、親鳥から見放された子鳥同然生前に御指導受ける事が多々あったのにと後悔で一杯でした。

先生は明治四十四年一月一日日生れで小松高女第十五回の卒業です。同級生の方に先生の印象を聞きますと、「私達は南愛子さんと同級であった事を誇りに想っています。彼女は自分のやりたい事は即実行に移す積極性に富む人で、一口に言えば男勝りであり女傑でした」と……。

南先生のこれまでの足跡は、昭和三年石川女子師範学校卒業、最初の赴任地は鳥越小学校でした。次は八幡小学校、今江小学校、芦城小学校、市立中学校、上小松小学校の歴任でした。昭和二十四年白楊幼稚園々長として就任、以来平成九年三月まで約四十八年間、幼稚園の経営、教育に全力を注がれました。即ち園の新舎建設、運動場の拡張等、また幼児教育面では躰面、情操教育を重視され尽力されました。

私と先生の出会いは昭和四十二年の頃からです。それは

- 1、白楊会の理事として
- 2、市婦連役員として

3、市退職女教師の会の役員として  
これらの会は勿論南会長で、この時いろいろと御教示を戴きました。先生は本業の幼稚園教育の会合には県内は勿論、全国に東西奔走されてお

られました。先生の偉大な功績はいくつかの授賞にも繋がりました。

- 1、県知事賞 昭和四十二年
- 2、文部省表彰 昭和五十三年
- 3、勲五等瑞宝章 昭和五十八年
- 4、小松市文化賞 平成四年
- 5、北国風雪賞 平成五年

多くの授賞を受けられ、先生の活躍の有名度は市民の知らない人がない程でした。  
健康で意欲充分な先生でしたが、ふとした怪我が因で体調を崩され、平成九年一切の職を退かれ、療養生活に努められました。先生の御心情察するに、さぞ残念の極みであったと推察致します。

先生は多忙な中にも趣味として、謡曲の稽古に熱中され、余興に狂言の一節をされて、会を和ませて下さる一面もありました。また俳句にも凝られ「越船」の会員として秀句を多く残していらつしやいます。

- ・ 亡夫の年越えて八十路の初詣
- ・ 木苺を摘めばしたたる黄に熟れて
- ・ 雨に濡れ弥彦山路のやぶれ傘
- ・ 仕上りて園舎秋天へ美しく

・ 溪水も紅葉も光る冬日和  
先生との想出は数多くあります。深く胸に秘めて私達は先生の万分の一でも御期待にそうよう心がけるつもりです。どうぞ先生、安らかにお休み下さいませ。

愛子先生を偲びつつ…。(県女21回)

## 私達の青春時代

山崎千代香

私の学校時代は、戦争時代と重なります。

十二月八日（太平洋戦争開始の日）は日の丸弁当と、食糧の節約が唱えられました。戦争が激しくなると、「白地」のお米が乏しくなります。栄養など考える余地はなく、口に入る物は何でも、山菜や野草まで摘んできて、米粒よけの混ぜ御飯、親の苦心の料理が俵ばれます。

戦時中で修学旅行もなく、思い出すのは、金沢まで歩いた遠足です。リュックの中には、つましい配給分だけのお米を入れました。私達のクラスの宿はお寺、他のクラスは風呂屋の二階で一泊しました。

あくる日は、金沢から鶴来までの電車がとつても嬉しく、白山神社に参拝して、鶴来から本寺井駅（寺井町）までまた電車、そこから小松へと歩いて帰りました。懐かしい小学校時代最後の旅行でした。

女学校時代の思い出は、勤労動員に尽きるように思います。

初めは、親の着物で作ったモンペをばいて、「マイケン」と呼ぶ今の空港辺りにあった海軍の施設での勤労奉仕でした。一面の砂地を耕して、馬に食べさせるトウモロコシなどを植える作業です。砂利道を整理して進む後ろには、軍隊出の教練の先生

がいて、「話をするな」「尻を振って歩くな」と手にした竹刀を振り上げて怒鳴るのです。

その後、小松製作所小松工場での勤労動員が終戦まで続きました。その間、週一回の登校日があったものの、毎日の勉強でも十分ではないのに、週一回では分かるはずがない。音楽もドレミではなく、ハニホヘトで習ったことが思い出されます。

八月の終戦で学校生活に戻りましたが、急になにもかみたいへんな変わりようでした。敵国語として廃止されていた英語が復活し、Aの字も知らない状態なのに試験があつて、いつも白紙提出のような有り様でした。分からずじまいのままに半年が経つて、無事に？卒業ということになりました。

楽しいはずの学生時代は、作業に始まり、作業で終わつたようなものですが、今から思い返せば、体が鍛えられ、辛抱強さが練られ、なんとも頼もしい青春時代だつたようにも思います。今は元気な同級生の笑顔を見ると、ひとつの楽しみ、自分もいい顔で残された人生を過ごしたいと思つています。（市女19回）

## チップ 三題囃

林田 正昭

昨今、とやかく言われる日本経済であるが、豊かになつていのは間違いない。それにつれて、円が強くなり、輸出企業は悩みが深い、個人にとっては、「遣いで」のある円のお陰で、航空代金をプラスしても国内旅行より割安で海外へいけるといふ結構な時代になつてきた。

海外旅行につきもののチップの習慣に否応なく付合ねばならなくなつてきた。勿論、日本でも温泉地の和風旅館や廃れてきたと言え花柳界にもその制度は「心づけ」という風雅な呼び名で残つてはいる。しかし昨今のホテルでは予めサービス料込みの価格設定がなされており、幾ら渡すかとか、小銭の心配をする煩わしさが無い便利な制度だと評価されているようだ。果たしてそうなのか？

チップを以下の三件で考えてみた。  
『チップは難しい』

チップの支払額は自ずと相当額というものが決まつている。即ち、飲食代金やタクシーのメーター料金の一割乃至一割半とか。これは、現地の事情や相場を調べてそれに従うことが必要となる。気前良く多く払えば、勿論、相手は喜びはするが、内心は余程の成金か、旅慣れぬ御仁と侮られるのが落ちである。日本人はとかく金持ちで、この種のチップの相場を上げる輩であるとの非難もされたりする。小生も事前の勉強を怠り、オーバーに相手に喜ばれ「しまった」と思つた事が何度もあった。単なる金持ち、成金が尊敬されないのは、10年前の湾岸戦争で直接戦闘行為には憲法上の成約から参加出来ないとして、九十億ドルも支払いながらクエート政府の米国新聞への感謝広告に名前が載らなかつた例でも明らかである。プライドを持つ国や国民に札ビラでほつぺたを張る方式は反感をもたれこそすれ尊敬されないと考えるべきである。

『チップは厳しい』

相場や程度があるチップではあるが、本来得たサービスに対する評価としてチップを払う訳だから、不満足であれば、断固としてチップを減額して、その意を示さねばならない。そうでなければ、相手も自分の瑕疵に気づかず反省や改善の機会を逸する。昨今、ファーストフードの店やファミリールレストランでお客の満足度を調べる為のアンケートが盛んだが、チップの多寡で本来は計量出来るべきものである。米国で、その現場に出くわした。レストランでの遅い夕食を米人同僚と取つていた時のこと。ウエイトレスの対応が如何にものろく、食事が出てきた時には空腹とイライラで相方は爆発寸前であつた。「このサービスの質はなつていない。屈辱的な額のチップで彼女に思い知らせてやる」と相場の三割を支払つた。ウエイトレスは膨れ顔であつたが、口論にはならなかつた。甘えない、契約社会の厳しさを思い知らされた。『チップは愉快だ』

小銭の持ち合わせがない時にチップの支払いはどうするか？正解は「堂々と高紙幣で支払いおつりを請求すればよい」これは、サウジと南ア

でホテルのポーターに小生自ら試した結果である。彼らはチップで生活しており、おつりを当然持っていると考えればよい。笑ってしまつたのは治安の悪いことでは定評のある、南ア

でのこと。ポーターが、おつりがな

いというので、全部上げてもしようがないかと腹を括つて両替をしてきて欲しいと頼んだ。数分後、ドアの前

に件のポーターが両替金を持って現れた。なかなか正直者だからチップは少し多めに弾んでやる積もりで、差し出したところ彼曰く「もう頂いて差額をお持ちしました」チップ生活者のちゃっかり加減と厳しさを改めて知つたものである。(高校14回)

## 文部大臣奨励賞をいただいて

滝沢美恵子

私が水彩画の世界に入ったのは、十年程前の事です。

それまでのニットのデザインがランプリをいただき、と同時にすごく大きな壁が出来た様に思つていた時、たまたま、知り合いの占いの方の「絵をやってみたら」の一言で。

七年前病気の父を見舞つた帰り、金沢駅で手にした本で日本水彩画展の公募が目にとまり、父への元氣づ

けを込めて出品してみたのが「日本水彩」へのきつかけでした。

その入選の結果を父に話すととても喜んでくれました。

それから父を喜ばせたくて、父へのメッセージをこめて「片隅」をテーマにポロ靴を描きました。

その父が亡くなつた平成十年「片隅」が奨励賞をいただいたのです。

でも、それからもうメッセージを伝えたい人がいなくなつて私の中でポロ靴は描けなくなり、私の対象は石膏像になりました。

平成十一年、石膏像をモチーフに「アトリエにて」再び奨励賞をいただき、会友に、そして今年「街かどで」が文部大臣奨励賞をいただいて会員

になつたのですが、こうしてみると父の霊が賞をとらせてくれたのではないかと心より感謝しています。

水彩ならと気楽に始めたものの、まだまだ描くことが楽しめなくて苦しい事の方が多いのですが、これからは一期一会を大切に皆様に育てられているという事を実感しながら楽しんで描ける日がくるのを夢見つつマイペースで歩いてゆきたいと思つています。(高校18回)

## 一年が経つて

中川 拓郎

今、僕の家には録画したのに誰も見ようとしない一本のビデオテープ

があります。なぜならその中身は昨年の甲子園、小松一新湊戦だからです。

一年が経とうとしても、未だにあの試合だけは受け入れ難く、最後まで見る決心がつきません。この度依頼を受けたのを良い機会として、もう一度ふり返つてみようと思ひました。

開会式当日。リハーサルの時とはまるで違う会場の雰囲気興奮してしまいました。リハーサルの時に外れかけた優勝旗に「外れるなよ。」と呼びかけながら夢中で歩きました。感動したのはその後の出場校全員で中央へ向かう時の会場全体の拍手です。地上からわいてくるような地響きに似た拍手を浴びながらの行進は夢心地といった感じでした。

八月十日。試合前のノックの時、アルプススタンドを見ると満員の応援団。何千人もの人が野球部四十六名を見るためだけに来て下さる、絶対に勝とうと思ひながら試合に臨みました。試合に関してはご存知の通りです。最終回、十一回の裏は吉田武史君の好意を受けてサードのランナーコーチをしていました。最後の打球を見届けた後はホームベースまで走れませんでした。

近頃、甲子園のことを思い出すと考えるのは、一つは歴代の野球部の先輩に対する深い尊敬の気持ともう一つは、僕達を支えてくれたあらゆる人への感謝です。甲子園へ行くこ

とが出来たのは、僕達が甲子園を目指し練習したから、それだけじゃないと思ひます。毎年甲子園を目指してきた野球部の伝統が創立百周年という記念と重なって、悲願を達成出来たのだと思つています。また、同窓会の方々からの様々な形の援助や、全校生徒による夏休みの応援練習。「自分達だけの甲子園ではなかった。」これが今の気持ちです。

今野球部は、甲子園一勝を目標に日々練習しています。いつか達成出来るよう、一OBとしていつまでも支えていきたいと思ひます。そして、甲子園で校歌を歌う日を楽しみにしています。(高校52回)

## 短歌 伏木にて

高校3回 田中喜美子

み社を蔽ふ古木に花のなし

家持が賞でし藤のまぼろし

天晴らしに絵筆を振ふ猛子さん

雄鳥のつまま緑豊かなり

別れの宴開きし加納の石碑の前

忘草咲き家持徳ばゆ

浴龍池を望む隣雲亭の軒に立つ

北山はかすみ雨雲おほふ

竹群は撓り傾き影明かし

待宵月の雲出でしかば

## 西から東から

## 『白峰』會発會の記

## と関東小松同窓会

関東小松同窓会幹事

宮前 茂広

小松を離れて既に30年、ここ関東

の地にかけてから24年が過ぎようとして  
いる。今年は、3年に一度開催さ  
れる関東小松同窓会の第8回目に年  
にあたる。縁あって、この総会を担  
当する幹事団の幹事長を仰せつかつ  
た。今回の総会では、創立100周年記  
念をここ関東の地でもお祝いするこ  
とで企画を進めている。各期の幹事  
から、懐かしい資料の提供をお願い  
していたら、関東小松同窓会の前会  
長の本谷勇（中学46回）さんから、

大正13年6月6日発行の同窓會報  
「白峰」第33号の抜粋が送付されて  
きた。これは、井口元校長先生が同  
窓會誌を調べていて見つけたとのこ  
とである。そこには、関東小松同窓  
會の発會の記事が掲載されていた。

第1回集會は、「白峰會」と称して  
大正12年（1973年）5月12日に  
神田錦町松本亭で21名が會合し、第  
2回目は大正13年1月27日に20名が  
會合したとの内容であった。北大出  
身である小生には忘れてはならな  
い、中谷宇吉郎先生の名前を見つけ  
て大いに驚いた次第である。「白峰

會」発行記事の冒頭に次の文節があ  
った。「愛郷的精神、それは我々各  
人の胸に秘められている燈である。  
燈と燈がお互いに照らし合ったそ  
の時こそ、冷たい都會を忘れて心から  
の懐かしさと慰安に恵まれるに相違  
無い。」75年経った現在でもこの心  
持ちに相違はない。

我々、高校23回生（昭和43年卒）  
は、関東に50の同胞がいる。今回の  
幹事団の代表でもあり、一昨年から  
半年に1回集まって懇親を深めるこ  
とにした。私にとっては、正直なと  
ころ、高校卒業以来の面々であり、  
即座に識別できないものの懐かしさ  
はひとしおであった。これまでに3  
回開催し、毎回23〜25名が集まって  
いる。高校の同窓生は大学の同窓生  
とは違ったものを感じる。それが  
「愛郷的な精神」なのかもしれない。  
時代は変わっても、いつまで経って  
も故郷への気持ちや同郷・同胞への  
思いは変わらないものではないかと  
妙に納得してしまった。

（補足）創立100周年を記念して関東  
小松同窓會では、ホームページ『だ  
らな』を開設しました。だらなこと  
でも何でも掲載できるようなHPに  
育てていこうと思っています。是非  
ともアクセスして、色んな情報も提  
供下さい。（高校23回）

ホームページ「だらな」

<http://www.geocities.co.jp/Heartland-Namiki/4848/>

## 故郷の廢家

関西小松同窓会長

宮崎 一也

母校を卒業後、学業での名古屋や  
東京生活を除き、住居も勤務地も大  
阪ばかりで四十年、勤務先を定年退  
職して、はや三年過ぎた。五人兄妹  
の長男ながらも郷里を離れている。

かつては長男は郷里を離れること  
は少なく、地方から都會へ働きに出  
た人も、定年退職と共に「故郷に錦  
を飾る」とでも言うのか退職金と恩  
給を土産に帰郷し、晴耕雨読で悠々  
自適、あるいは地域社会の世話役、  
今と言うボランティア活動で故里に  
何らかの貢献をしながら、余生を送  
つた人が多いと聞いた。

しかし、現代のサラリーマンはそ  
うはいかない。寿命は伸びたが、不  
安一杯の古い先、退職金や年金だけ  
で安閑としてはおれないし、元気で  
ある限り働いて社会と繋がりをもち  
続けたい、と思っている人が多い。

幸いにして私も健康、生き甲斐と  
何がしかの収入を得る為に仕事につ  
いている。第二の人生もやはり、過  
去の経験や人脈を生かした今までの  
勤務に関連のあるものになりたい。と  
いうことで引き続き大阪で仕事と住  
居を得ている。二人の子供も既に東  
京と大阪で独立して生活している。  
そんな私に難題が出生した。

郷里の家の処置に関してである。  
その家には父亡き後、母が一人で住  
んでいた。盆や正月は言うには及ば  
ず、常に人の出入りが多い家だった。  
しかし昨年母が亡くなると無人。訪  
れる人も無くなった。

故人の思い出を残したい気持ちと  
私等家族が何時でも利用できるよう  
に、電気、水道はもとより電話もそ  
のままにしている。そして一年以上  
経過してしまった。

しかし、今の仕事や大阪での近隣  
との関係を中心とした生活を余儀な  
くされると、気にはなるけれどもそ  
う再々帰ることもなく、郷里の家は  
空き家同然になっている。庭は草ぼ  
うぼう、植木の落ち葉は隣家に飛び  
散る。といった状態である。

弟妹たちはそれぞれ独立して、所  
帯と自宅を持っており、今更家を必  
要としないが、空き家ではあっても  
元はといえば母屋、見るに見兼ねて  
時折世話をしてくれている。頭の下  
がる思いではあるが、それに甘えて  
ばかりもおれない。

今時、金を出しても草むしりや落  
ち葉掃きをやってくれる人はいない  
そうだ。また、主亡き家の維持費も  
馬鹿にならない。この家をどうした  
ものか、夏の草、秋の落ち葉、冬の  
雪、季節季節で頭を悩ませる。

長男として家を守る為に帰郷すれ  
ば、長年、大阪で得た人との繋がりが

と収入を失い。大阪にいれば、長男としての務めを果たせず、家は朽ちてしまう。

to be or not to be 正にハムレットの心境の今日この頃である。

私の周辺の関西小松の会員の中にも、郷里の家を処分し、関西で永住と決めた人。断腸の思いで家族共々帰省した人。人様々であるが、その結果は必ずしも良い選択だったという人ばかりではないようだ。

少子高齢化社会になれば益々私の様な悩みの人が増えるのではなからうか。(高校8回)

### 国際都市名古屋 雑感

東海小松同窓会長

山上 孝俊

私が昭和三十八年四月に三菱電機に入社して配属された所は、名古屋の中心地に近い大曾根地区(名古屋ドームのある地域)の製作所でした。当時の名古屋の町は、樹木が小さくて道路だけが広い殺風景で乾いた雰囲気であったという印象です。それからすでに三十七年、樹木は大木となり緑豊かな整った町になりました。名古屋城のお堀端へ行きますと、緑の樹木の香を一杯に含んだ清々しい空気が吹き上げてきます。

名古屋を中心とした愛知県は、全国一はもちろん、世界的拠点ともな

っている工業製品を沢山生み出して全国第二位の神奈川県を大きく引きはなして全国一の出荷高を上げています。その代表格が自動車、工作機械、窯業製品、プラスチック、家具、ゴム製品そして織物です。二十世紀において人類が求めた物的豊かさを全国に世界に発信し続けたといえます。このようなすばらしい名古屋ですが、東京や大阪に比べて影が薄く必ずしも良い印象を持たれていないことは住人の一人として残念です。愛知県が何故これほど抜きん出た全国一の工業県になったのだろうか。私見を申し上げます。

この地域の地理的、地形的、歴史的特性をうまく生かして、人類が求める物的豊かさの進展を先取りして着実に根気よく育ててきた。そして物まねでなく世界を視野に入れた高い目標を持った強いリーダーが生まれ育った。オリジナリティの高い製品が多いことから判る。二十一世紀は正にソフトやITの世紀。その分野が遅れていることは大変気になる所です。

二十一世紀を間近に控えて、名古屋駅には高さ二百四十五メートルのJRセントラルタワーが誕生しました。展望室では半径二十キロメートルに渡って名古屋市街から濃尾平野を一望できます。この完成は名古屋のビルの超高層化に拍車をかけ、

その上愛知万博や中部国際空港の開港もあり、町はどんどん変わって行くでしょう。二十一世紀の名古屋は、物的豊かさよりは心の豊かさを発信する国際都市になってほしいと期待する一人です。

名古屋は日本の真中にあり、大都市と田舎の二つの要素を持ち、良質の水に恵まれた職・住とも便利な地域です。通りすがりの人には排他的ですが、じっくり腰を据える人には好意的な真面目な地域ではないでしょうか。名古屋のファンが一人でも増えることを願う一人です。(高校10回)

### 第四十九回白楊会

#### 関東支部総会便り

北山 寛子

美しく晴れ上がり、桜の花便り賑々しい四月十一日、三十七回生の御骨折りにて、吉祥寺第一ホテルで総会が催されました。

昨年、小松高校百周年記念行事が在校生・卒業生一丸となって盛大に行われました。その記念事業の一つに私共の母校「県立小松高女」ここにありき」の記念碑が建立されました。

総会の報告の為、小松より白楊会本部役員三名御出席下さいました。碑の建立についての御苦心談をお聞きして、碑の写真会場内で回覧しまして除幕式に出席した人もはじめて碑

の姿を見られる方も感激一入でした。出席者五十余名は、一年ぶりの出合いを喜び友の消息を語り合い、用意された美味しいお料理に、心もお腹も満ち足りた一刻でした。

先生方は勿論、私共同窓生も加齢と共に出席しにくくなり、来年の第五十回を機に永年続きました名譽ある白楊会関東支部の幕を閉じる事となりました。その前年である今年はずの外思いが深く「故郷を離るる歌、小松高女校歌」の斉唱終わりお開きとなりましたとき胸あつくなりました。そして来年の事を言うとき鬼に笑われるそうですが、皆様方には一層お体をお大事になさいます。来年の最後のお集りにはお友達にお声を掛けあつて是非多数の方々のお出席下さるようにとお伝えして春愁の街へとお別れました。(県女27回)

### 俳句 雑詠

高校5回 西島 匙

薔摘み母校の裏に来てゐたり  
水温む橋のペンキを塗り代へて  
春愁やピカソの鳥の水平に  
吹き起る風の中より菖蒲守  
ひぐらしや階段教室復元す

過去12年間の合格状況

Table showing admission statistics from 1989 to 2000 for various universities, categorized by public and private institutions.

平成12年3月卒業生の主な進学先

Table showing the main destinations for graduates in March 2000, listing various universities and their counts.

本部だより

同窓会報『天守台』第20号をお届けします。今後とも会員の声や同窓会活動の紹介、学校の現状などPRに努めていきたいと思っておりますので、御支援の程よろしく願います。

- 委員長 井口 哲郎 (高校3回)
委員 安田進一郎 (中学45回)
委員 浜野 光代 (県女35回)
委員 福島 房江 (市女19回)
委員 宮西 勉夫 (高校9回)
委員 野田 洋子 (高校12回)
委員 杉永 信幸 (高校18回)
委員 益本 周 (高校30回)

Memorial Hall Utilization section featuring a photograph of the building and text regarding opening hours and usage procedures.

記念館の利用について

開館時間 平日午前10時～午後3時 (土日祝日を除く)

受付で手続きをすれば、随時見学・利用をすることができます。右の時間帯以外の見学・利用については、記念館事務室または学校事務室に申し出て、『記念館使用願』を提出し、許可を得てください。

同窓会事務局

- 学校職員 村井 恭子 (高校34回)
吉田 洋三・田中 哲臣
中出 洋子・木戸口 徹
北澤 敏美

第21号の原稿募集

- ◎ 発行 平成13年1月
◎ 送先 千九三二一八六四六
小松市丸内町二ノ丸15
小松同窓会事務局宛
TEL・FAX (〇七六)二二一六三三〇
◎ 内容 自由(在学中の思い出、近況報告、俳句、短歌等 六百字程度で)